

令和 8 年度 日本赤十字看護大学

外部評価実施報告書

日本赤十字看護大学

外部評価委員会

I. 外部評価の目的

本外部評価は日本赤十字看護大学外部評価委員会規程第2条に則り、日本赤十字看護大学における自己点検・評価活動の客観性・妥当性を高め、同学の教育・研究・社会貢献等の諸活動の質を保証し、更なる改善・向上に資することを目的とする。

なお、外部評価にかかる点検・評価は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）及び入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシー（別紙参照）を十分に踏まえ、実施した。

II. 外部評価委員会実施概要

本外部評価は日本赤十字看護大学における点検結果を踏まえ、下記のとおり、外部評価委員会を開催することで実施した。

1. 日 時 令和8年7月29日（水）15時00分から17時00分
2. 場 所 日本赤十字看護大学 広尾キャンパス 第一会議室
3. 出席者 次のとおり。

（1）外部評価委員

- | | |
|------------------------------------|-------------|
| ・日本赤十字社医療センター
骨髄腫アミロイドーシスセンター顧問 | 鈴木 憲 史（委員長） |
| ・聖心女子大学 学長 | 安 達 ま み |
| ・東京都立大学 副学長 | 西 村 ユ ミ |
| ・渋谷区保健所 所長 | 猿 田 克 年 |
| ・日本赤十字社医療センター 看護部長 | 渡 邊 美 香 |

（2）日本赤十字看護大学

- | | |
|-------------------|---------|
| ・学長 | 守 田 美奈子 |
| ・副学長 | 佐々木 幾 美 |
| ・学部長 | 江 本 リ ナ |
| ・学部長（さいたま看護学部担当） | 吉 野 純 |
| ・研究科長 | 本 庄 恵 子 |
| ・事務局長／危機管理センター長 | 桑 原 幸 一 |
| ・図書館長／図書館・情報センター長 | 川 原 由佳里 |
| ・学務部長／入試・広報センター長 | 井 上 明 宏 |
| ・学務部長（さいたま看護学部担当） | 喜 多 里 己 |
| ・研究推進センター長 | 齋 藤 英 子 |
| ・国際交流センター長 | 渋谷 真 樹 |

4. 配付資料

- (1) 日本赤十字看護大学案内 2027
- (2) 日本赤十字看護大学院案内 2027
- (3) 令和7年度 日本赤十字学園 アニュアルレポート
- (4) 令和7年度 日本赤十字看護大学 自己点検・評価報告書（年報）
- (5) 令和7年度 日本赤十字看護大学 外部評価実施報告書
- (6) 令和8年度 日本赤十字看護大学の活動概要等（スライド資料）
- (7) 令和8年度 日本赤十字看護大学 管理運営機構図
- (8) 令和8年度 日本赤十字看護大学 教員組織図
- (9) 日本赤十字看護大学 内部質保証体制図

5. 時間配分

時 間	内 容
15:00～15:58	外部評価委員紹介 本学の概要、現状、課題
15:58～16:05	休憩
16:05～16:55	意見交換
16:55～17:00	閉会

Ⅲ. 外部評価結果

(1) 理念・目的、内部質保証、教育研究組織、教員・教員組織

評価できる事項	意見と改善を要する事項
・大学案内の対談内容から、学生が建学の精神に関する高い意識を持って入学しており、帰属意識の醸成が早期の段階から図られていることが窺える。また、男子看護学生座談会の企画など、学生が建学の精神を自身の中に落とし込み、誇りを持って発信している点は素晴らしい。	・卒業生のホームカミングデーへの参加や同窓会への会費納入額が減少傾向にあることから、卒業生とのつながりを維持・強化することが課題である。医療現場の実態や卒業後のキャリアを在學生に伝える貴重な機会として、卒業生との交流を一層充実させ、在学中から大学とのつながりを持ち続けられるよう、大学への帰属意識をより強く醸成していくことが課題である。

(2) 教育・学習

評価できる事項	意見と改善を要する事項
・新たに導入された「赤十字マイスター制度」によ	・単科大学か総合大学かという点は、受験時に大

り、学生がボランティア活動や災害救護に関するセミナー等へ積極的に取り組む機会が創出されている。これにより、大学の教育理念である「人道」の理解を深め、大学や赤十字への帰属意識、社会貢献に関する意欲の醸成につなげている点は評価できる。 ・文部科学省の看護学教育モデル・コア・カリキュラムと現行カリキュラムの照合により、教育課程の確認および見直しの検証が適切に実施されている。 ・Assessor (学修成果可視化システム) の導入により、教員と学生の間で学習計画や各科目の達成度が共有できる環境が整備されるなど、個々の学習状況に応じた効果的な学習支援の拡充が図られている。 ・生成 AI の利用について、利用そのものを制限するのではなく、生成された情報の正確性や適切性を確認するよう指導するとともに、個人情報の漏洩防止や取扱いに配慮するよう、生成 AI の取扱いに係るガイドラインを策定の上、指導している点は評価できる。	学選択の判断材料として重視される傾向にある。単科大学であっても、他大学との協働による多職種連携教育 (IPE) の模索など、幅広い学びの機会を提供できる教育環境を整備していくことを期待する。 ・必修科目である「情報リテラシー」や研究関連科目の中においてデータの取扱いや生成 AI の活用等に触れられているものの、時代に応じた学生への指導や教員間の生成 AI の一層の理解・応用が課題といえる。 ・医療現場における人材不足は深刻な問題であり、社会を支える医療人材の育成は大学にとって重要な使命である。専門知識の教育に加え、社会に出る前段階として、指導や助言を前向きに受け止めることができる姿勢や粘り強さを育む教育を行い、医療現場を長く支える人材を輩出していくことを期待する。
---	--

(3) 学生の受け入れ

評価できる事項	意見と改善を要する事項
・卒業生を対象とした卒業生大学院特別選考の実施や、赤十字施設勤務者を対象とした赤十字特別選考により、卒業後の学び直しの機会を積極的に提供するとともに、多様な学生の受入れを進めている点は評価できる。	・昨今、看護師として就職した場合でも、早期にキャリアチェンジする例が増加している。少子化に伴う社会的背景から、数年後に医療現場における人材不足が深刻化することが想定されるため、赤十字の強みを生かしつつ、中学・高校生などの若年層に対して積極的なアプローチを行い、入学者数の確保に努めることが望まれる。

(4) 学生支援

評価できる事項	意見と改善を要する事項
・ 早期の段階から就職セミナーを定期的を開催するとともに、同窓会の協力による卒業生および看護部長によるキャリア相談、男子学生のキャリア支援交流会などを実施し、学生の就職に対する意識を高め、就職後のキャリア形成につながる取組が実施されている。	・ 6 大学間における実地の授業等や学生間同士の交流が少ないことから、スケールメリットを活用した多角的な学習機会の取入れに期待する。 ・ 就職活動の開始時期が早期化していることにより、実習期間の重複が懸念されるため、学生が計画的に就職活動や国家試験対策に取り組める支援体制を整備することを期待する。

(5) 教育研究等環境

評価できる事項	意見と改善を要する事項
・ 教員の科学研究費助成事業の採択率が向上傾向にあり、研究体制が十分に整備され、研究活動の活性化につながっていることは評価できる。	・ 安全保障貿易管理や海外との共同研究におけるデータ利用等に関する専門的なチェック体制について、今後の活動を視野に入れた体制の整備を期待する。

(6) 社会連携・社会貢献

評価できる事項	意見と改善を要する事項
・ 中学校・高等学校との連携協定の締結に加え、S-SAP 活動として小学校での手話啓発活動、地域防災プロジェクトとして子ども食堂出張防災講座の開催など、本学の教育・研究活動を通して培われた知識を地域社会に還元し、地域の若年層を対象とした教育・啓発活動を積極的に展開している。	・ 特段の事項なし。

(7) 大学運営・財務

評価できる事項	意見と改善を要する事項
・ 渋谷区のふるさと納税を活用した寄付募集の開始により、既存の寄付に加え多様な大学への支援方法を提供し、寄付機会の拡充に取り組んでいることが窺える。	・ 特段の事項なし。

IV. 結語

日本赤十字看護大学では、赤十字に関連する科目や学内外での活動を評価する「赤十字マイスター制度」を新たに導入するなど、建学の精神である「人道」に基づいた教育を実践している。こうした取組を通じて、学生の赤十字への理解と関心を深めるとともに、卒業後も国内外において社会に貢献できる医療人材の育成・輩出に努めていることを確認することができた。

一方、少子化に伴う社会的背景から、数年後には医療現場における人材不足が一層深刻化することが想定され、医療人材の確保は社会的にも大きな課題となっている。看護が果たす役割は今後も不可欠であることから、同大学においては、積極的なアプローチによる入学者の確保に加え、指導や助言を前向きに受け止めることができる姿勢や粘り強さを育み、長期にわたって医療人材として活躍する意識を醸成していくことを期待する。そのためには、ライフステージやキャリアの変化にも柔軟に対応しながら、長く医療現場で活躍できる多様な人材を育成する体制づくりが重要である。

引き続き、同大学が医療人材を安定的に社会へ送り出し、我が国の医療現場を支え続けることを大いに期待したい。

以上

令和 8 年 9 月 16 日

外部評価委員長

鈴木憲史

